

東京 IPO 特別コラム

2016年9月27日 Vol.51

お宝銘柄探しの旅を続ける投資家が求めるもの

後から振り返ってみれば、あの時が投資のチャンスだったのにと悔やむ投資家もいれば、反対にあの時に売却していればと悔やむ投資家もお見えになるのが、株式市場の常です。国民の財産を守り健全な資産形成の場としての株式市場では悲喜こもごもの投資家に絶えずチャンスを与えてくれています。取引対象となる企業の株式がきちんと投資家に平等に情報公開されていて、売買チャンスを与えられた投資家は最終的には自己責任の下で売買の判断を下します。仲介する証券会社はその決済の担い手であり、時に投資家に様々な情報提携を何らかの形で行います。企業は自己PRやIRを証券会社やフィナンテックのような専門的なIRコンサル会社を通じて行っています。自社の成長や事業価値に自信があるのに株価がまだ十分に評価されていないと感じる企業は、積極的にIR活動を行い、評価を高める努力を重ねます。

一方で投資家は自らのリスクマネーを様々な金融商品に投じて資産形成を図ろうとしています。その代表的な資産が株式になります。その株式が売買される場が株式市場であり、そこで形成される個々の企業の株価はマクロ経済環境やミクロの企業業績の変動に左右されますが、一方でそうしたマクロ環境にも影響されずに独自のビジネスモデルで評価を高め、投資してから何倍にもなるケースがあります。投資家の理想はそうした株式市場の中から独自の選択眼で何倍にもなる銘柄、つまりお宝銘柄を探し出すことにあるのかも知れません。それは投資家の皆さんに平等に与えられているチャンスと言えます。どうやったらお宝銘柄が見つかるのかは、決して教科書には書いてありませんが多くは経験則から得られるものと思います。まずはその企業の事業内容や財務内容を理解しないとなりません。最初はお宝だとは気が付かないことが圧倒的ですが、お宝予備軍が市場には存在していることは確かです。その確率は宝くじよりは高く、得られるリターンもゼロ金利時代の中では途方もないパフォーマンスが得られる可能性があります。株価が決定される背景を理解し、それがどういう理屈で成立しているのかを理解した上で、業績の向上に向けた可能性を探ることも投資家、とりわけ中長期スタンスの投資家には必要な作業となります。現状の時価総額と未来の収益を比べて現状が割安との評価ができれば投資のチャンスではありますが、未来のことは誰もわからずリスクとなります。投資家は最初からポジティブな未来を描けないような企業にリスクマネーを投じることはないかと思います。

2013年末から2014年にかけて株価が30倍以上にもなったミクシィ(2121)はあまりにも極端な例かも知れませんが、2014年半ばから本年にかけて株価が12倍にもなった平田機工(6258)のようなお宝銘柄が隠れているという期待を持たれた投資家が、潜在的にはお見えになるものと思います。直近のIPO銘柄にそうしたお宝銘柄があるとは断言することはできませんが、明るい未来を描いて利益成長をしていく企業でなおかつ現状の市場評価が低いという企業が対象になりそうです。市場ではそう

東京 IPO 特別コラム

したお宝候補銘柄を低PER、低PBR、高配当利回りのバリュー株に求めようとしています。投資して外れても大きな損が出ることはないので個人投資家が継続的に買い続けることができる銘柄が候補となるものと思います。成長指向のバリュー株、しかもIR活動を活発化させた企業という点が重要かと思われませんが、根本的には企業の成長性とそれに対する投資家の評価の高まりが株価に反映されることを認識しておく必要があります。PBR0.5倍割れ銘柄が700社近くにもなっている時代です。その中のいくつかの銘柄にこそお宝銘柄が隠されていると思われませんが、皆様のお考えはいかがでしょうか。

(東京 IPO コラムニスト 松尾範久)